

千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報 第85号

Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

Contents

Page 1 ……………

巻頭随想

吹田市に2年5ヶ月生活してみても
土屋 純

Page 2-3 ……………

研究ノート

日本におけるカ
レーの受容と多様
化・新規参入の諸
相
—その文化地理学
的考察—

鄭 梓玉

Page 4 ……………

日帰り巡検報告

湯浅・有田・御
坊・和歌山の自然
と人文社会

嶋田航大

Page 5 ……………

今後の研究会行事
地理学同窓会総会
のお知らせ

Page 6 ……………

卒業論文及び修士
論文一覧

Page 7 ……………

教室だより
同窓会事務局ニュース
卒業生の近況

Page 8 ……………

随想
地理学教室での足
跡

遠川明彦

Page 5-7 ……………

新専修生からのひ
と言

吹田市に2年5ヶ月生活してみても

土屋 純

2019年4月に関西大学文学部に赴任して以来、吹田市での生活が2年5ヶ月となりました。吹田市は京阪神圏でも人気のある郊外地域の1つであり、2000年代以降、人口が増加し続けてきました。住民基本台帳によると、新型コロナウイルス問題が発生した2020年において、吹田市は京阪神圏の市町村で最も人口増加数が多かったようです。職場への近接性よりも、生活環境の良さを重視した居住地移動が行われた結果であるでしょう。では、吹田市の特徴について、私の生活経験からお話してみたいと思います。短い居住期間ですが、公園とスーパーの都市施設に注目して、お話しします。

吹田市は、子育て世帯が多い地域です。私は5歳の息子と2歳の娘がおり、休日に2人を連れて公園に行くことがあります。公園には多くの親子が遊んでいる光景を見ることができます。私はもっぱら佐井寺南ヶ丘公園（長い滑り台もあり、住宅地内にある大きな公園）に行くのですが、休日には公園周りの路上に駐車が多くなってしまふほどです。あまりにも路駐が多くなった時に、警察による警告が行われていたこともありましたが（公園内を警察官が巡回し、路上駐車しないよう注意・勧告をしていました）。

吹田市の公園は他の市町村と比較すると少ないといえます。国土数値情報の都市公園のデータを見てみると、2015年における人口1万人あたりの都市公園数は、大阪市が3.55箇所、豊中市が9.41箇所、高槻市が5.34箇所、吹田市が3.36箇所でした。このデータはシェープファイル形式で公開されているので、GISソフトでその分布を見てみたのですが、吹田市のデータの場合、小規模公園がデータに含まれていませんでした。他の市町村の状況を詳しく検討していませんが、吹田市の場合は過少に数値が示されていると思われます。しかし、子育て世代の人口が増加している中ですので、公園は十分に整備されていないように思われます。

三浦（2002）で実施されている、吹田市にある公園の利用状況を把握するためのアンケートをみてみると、佐井寺南ヶ丘公園の場合、年齢が30代で、居住歴が5年未満の親の利用が多いことが示されています。吹田市は、居住歴の短い人口の割合が高く、子育てに孤軍奮闘する女性が多いのではないかと考えられます。佐井寺南ヶ丘公園の周辺には賃貸マンションが多い地域ですので、幼稚園等で知り合いになった親同士が、子どもを連れて公園で遊ばせているようです。少子高齢化が進んでいる日本の中で、公園に子どもたちが多くつどい、賑やかな光景が見

られる貴重な場所のように感じています。

続いて、吹田市のスーパーについてお話ししたいと思います。吹田市は郊外地域なので、基本的に自家用車を利用してロードサイドの店舗に買い物することが中心となっています。私が居住している地域には、近くに関西スーパーなどがあり、徒歩でも買い物できる状況となっています。

吹田市の買い物環境ですが、選択肢が多いのが特徴ではないでしょうか。まずは万博記念公園の隣接地、かつてエキスポランドという遊園地があった場所には、EXPO CITYという巨大なショッピングセンターがあります。週末は大変混み合うのですが、平日は空いているので、ゆっくり買い物ができます。都心に立地するようなブランドなどが入店しているので、都心の買い物の代替として利用することができます。

最寄り品の買い物先であるスーパーについてみると、吹田市内には、まず富裕層向けの“いかりスーパー”があり、続いて“阪急オアシス”も品質の良い食材を扱っています。妻と一緒にいかりスーパーで買い物したことがありますが、店内にシャンデリアあり、各レジに店員が2名配置されていて、会計処理を担当するスタッフと、買い物バックに詰め込む作業を担当するスタッフがいました。駐車場には外車ばかりで、関西の富裕層の生活を垣間見た感じがしました。阪急オアシスでは、やや価格が高いですが品質の良い食材が販売されています。このように高質スーパーが存在していて、富裕層のニーズに対応しているといえます。

一方、業務スーパーやマックスバリュなどのディスカウント系のスーパーも多くなっています。阪急千里山駅前には、阪急オアシスとマックスバリュが立地しています。千里山駅周辺に生活している人々は、この2つのスーパーを使い分けているようです。このように、選択肢が多いことが買い物環境を良くしていると考えます。

このように全般的にあって、吹田市の買い物環境は良好であると思いますが、吹田市の中部、北部地域は、丘陵地が開発された住宅地域なので、全般的に坂道が多く、そして曲がりくねった道があります。車が運転できる若い世代であれば問題ないかもしれませんが、高齢者によっては障壁の多い買い物環境になっているのではないかと考えられます。地理学の研究において、フードデザートや買い物弱者問題が注目されていますので、私としても吹田市における高齢者の買い物環境について調査してみたいと考えています。

参考文献

三浦浩之 2001. 少子高齢化社会に向けたニュータウンの都市公園の再生. 人間環境学研究 (広島修道大学) 1: 81-101.

(つちや じゅん: 本学教授)

日本におけるカレーの受容と多様化・新規参入の諸相

—その文化地理学的考察—

鄭 梓玉

1. はじめに

中国では現在でもインド料理店をまちかどで見つけられない。かたや日本ではカレーを提供する飲食店はたいへん一般的で、カレー専門のファストフードの店から、創作カレー、洋食専門店や喫茶店でのカレー、ホテルでの朝食に供される朝カレーまで、その多様性には目をみはる。また現在では、日本全国の小さな都市にまで、南アジア出身者が経営するインド料理店が分布する。私は留学生として日本に来てその現状を見て驚いた。

本稿は日本におけるカレー文化の導入から普及・変容、多様化の様相を文化地理学的視点から考察するもので、2021年7月に提出した同名の修士論文のエッセンスである。

本研究では日本におけるカレーの受容・多様化と最近のトレンドを、近代における歴史的側面をふまえて、以下の3つの範疇（表1）における分布と特色を各種文献やウェブサイトの情報、経営者への聴取などを資料として分析し、今後の日本におけるカレー文化の動きを予想してみたい。日本の食文化がグローバル化する過程で、日本の魅力となるような料理や食文化が世界へ広まり、他の国に伝える意義と課題を検討することも肝要である。

表1 日本にあるカレーの種類

種類	一般呼称
欧風カレー	カレーライス
エスニックカレー	インドカレー、タイカレー、インドネシアカレー
日本発進カレー	スパイスカレー、スープカレー、カレーうどん

(筆者作成)

2. 日本のさまざまなカレー

現在の日本には様々なカレー料理がある。そのなかで、一般にはインドカレーあるいはインド料理に位置づけられる本場カレーの分類をさらに細分して、現在の日本のレストランで食べることができる「インド料理」をその普及過程を考慮して分類した（図1）。

長い間、日本におけるインドカレーといえば、小麦粉を水でこね発酵させて焼いたパンの一種であるナンといっしょに食べる北インド風が中心であった。しかし、インド世界からの来日者による本場カレーの普及によって、店舗の増加、分布の全国的拡大とともに、提供されるカレー料理のジャンルも細分化していった。とりわけ1980年代後半以降、パキスタン、バングラデシュ、ネパールなどを含むインド亜大陸からの人びとが急速に日本に就労ビザで入国し、全国各地で多様な地域性豊かな南アジアレストランが開店してきた。

かつては「インド料理」と総称された呼称が、やがて「北インド料理」と「南インド料理」に大きく分かれた。ただし、北インド料理という呼称は日本ではあまり普及せず、単に「インド料理」あるいはその経営者の多

くがネパール出身者であることから「インド・ネパール料理」の名称が実際には多い。ただし単に「ネパール料理」を名乗る店はまだそう多くない。さらに下位カテゴリーである魚カレーが特色のベンガル料理は、実際は「バングラデシュ料理」であることが多いが、その政治・文化的中心がインドの西ベンガル州のコルカタのため、「ベンガル料理」の呼称で営業する場合も多い。

「スリランカ料理」は近年トレンドで、経営者の出身地を反映した地域性豊かなインド料理店が出現しつつある。ただ、従業者数ではインドよりはネパール出身者が多い。現在の日本の「インドカレー」を支えているのは彼らと行っても過言でない（写真1）。しかしその「インド料理店」では、ネパールではなじみがないが、日本では定番となっているナンがどの店でも提供されているのは興味深い。

東京では、さらに「南インド料理」という呼称が既に定着し、ここ数年さらなる名称の細分化（「ケーララ料理」、「スリランカ料理」）が進行しつつある。ココナツミルクをいれるスリランカやタミルのカレーは、タイカレーに慣れている日本人には受容されやすかったといえよう。

最近目立つのは、飲食業以外の本業を持つ新タイプの南インド出身者の台頭である。主にIT技術者として来日したのち、自国では経験のない飲食店経営を始めた人も多い。こうした動きは北インド料理店では少ない。北インド料理は、日本ではネパール人と競争して同じようなメニューをいくつもの店が提供し、乱立する状況が生まれつつある。それに比べて「南インド料理」は未開拓であるだけに商機がある。ただし「パキスタン料理」は彼らがいち早く手掛けていた中古車輸出業の副業や転換も一部にはみられる。

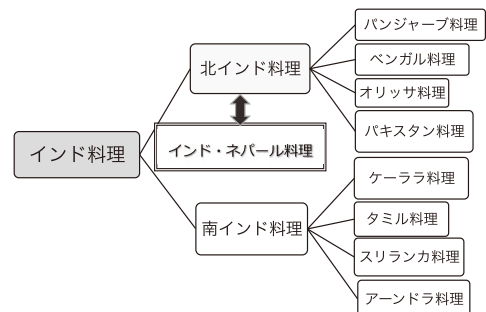


図1 日本におけるインド料理の分化
(筆者作成)

一方、日本で「カレーライス」という範疇の料理は、小麦・バターなどで作ったルーを使う欧風（イギリス風）カレーである。米飯にカレーをかけてスプーンで食べる料理は日本の国民食となっている。表2は、イギリスを経由して、カレーという食べ物が日本人の馴染み深い料理になるまでを時代別にまとめてみた。いずれも、米と

のセットである。パンやナンといっしょに食べる例はほとんどない。小学校の学校給食は、1950年代に全国で実施された。主食はアメリカの余剰小麦を使ったパンのため、シチューのようにしてカレーを食べた。その変化形が現在も人気があるカレーパンだろうか。

西洋文化を学ぶことでカレーは日本人に受け入れられた。軍隊と学校の給食によりルーから作るカレーライスが日本全国に広まる。国産カレーの「発明」は、軍隊での栄養のある定番メニューとなり（その流れが呉や舞鶴などの「海軍カレー」である）、日本の食文化にすっかり定着した。今は家庭でもレストランでもカレーを食べることがごく日常になった。さらに地域に特色あるカレー料理も続々と誕生している。「札幌スープカレー」は当地の名物として人気が集まる。カレールーの固形速成品を提供する大手食品メーカーの「ハウス食品」、カレーライス専門のチェーン店「ココ壱番屋」は、近年、アジアへの進出を果たしている。

表2 日本のカレーライスの普及過程

時期	年	できごと
江戸時代	1603-1867	西洋文明を学ぶ時期、カレーは西洋文明のひとつとして受け入れた
明治時代	1868-1912	国産カレー粉の発売、カレーは高級外食であった
大正時代	1912-1926	軍隊によりカレーが全国で広がった
昭和時代	1926-1989	カレールーやレトルトカレーの発売によって、カレーは更に庶民に普及する。学校給食での普及も大きい



写真1 関大前のインド料理店（現在のオーナーはネパール人）
写真2 大阪西長堀の創作インド料理店（北インド出身者の経営）

3. 日本におけるカレーの新しいかたち

大阪発祥の「スパイスカレー」という新しいジャンルが、この数年、市民権を持つまでになった。表3はその一覧で、著者がウェブサイトやスパイスカレーのムック（雑誌形式の書籍）などをもとにして作成した。

スパイスカレーの人気の理由は以下の4点である。①美容師、バンドマンなどの料理を本業としない人たちが自分たちの食べたいカレー、好きなカレーを追求して出店し、人気を博した。彼らの自己流の自由な発想から独創的なカレーが生まれた。②夜間に営業するバーやスナックを昼間だけカレー店にするなど、狭いスペース（テーブル席ではなくスタンド形式も多い）間借りで、かつ柔軟な営業形態で始めた店舗が多い。納得する味ができなかった日は店休日になったり、営業時間を極端に短くしたりと、メニューの内容の変化と同じように、店主の営業裁量もかなり自由である。③カレーは作りおきができる。食品廃棄率も少なく、広いスペースも必要としないカレー店は、顧客の回転率も高い、コロナ禍にあっても、テイクアウトも可能で、飲食ビジネスとしても有利な立場にある。④SNSや独自ホームページ、ムック、テレビなどで容易に情報が拡散される。

表3 大阪市周辺のスパイスカレー店

店名	場所	開業年	店舗・料理の特色
伽奈泥庵	谷町九丁目	1980	店主はインドからチャイを持ち帰り、チャイとカレーのコラボを確立したパイオニア。
ラクシュミ	西区新町	1988	現地家庭料理に根ざし、スパイス遣いは過激しがモトロー。
タンダーパニー	吹田市関大前	1990	オーナーは日本人だが、14種類以上のスパイスを使い、インドの家庭的な味をだす。ルーは使わない。
カシミール	北浜	1992	現在の大阪スパイスカレーのパイオニア。
カンテ・グランデ	中津	1996	カフェスタイルのパイオニア。
Cafe&Curry Buttah	長堀橋	2002	スパイスカレーブーム以前から大阪で愛され続けるカレーとチャイの店。
梨花食堂	天満	2006	30種類以上のスパイスと煮込むルウは中国とインドのミックススタイル。
コロンビア8	北浜	2008	2018年に初のミシュラン掲載。
谷口カレー	北浜	2010	間借りのパイオニア。
旧ヤム邸	谷町六丁目	2011	東京に進出、季節に合わせた食材を使用。
虹の仏	四天王寺前	2012	和食の経験を生かしただしカレー。
パピルの塔	谷町四丁目	2012	アサリやカツオと挽肉と合わせるのが珍しい。
BOTANI.CURRY	本町	2013	だしの使い方が巧みな皿が人気。
Chai Chai	西長堀	2015	インド出身シェフの独創的なカレー。ニンニク・生姜が入り優しい味(写真2)。
Mr.Samosa	北浜	2017	ピリヤニと2種類のカレーとサモサ一緒に提供する。
Pimer	京町堀	2018	日本人店主はスリランカ旅行をきっかけに、カレーの魅力に引込まれた。

大阪人はパイオニア精神を持ってスパイスカレーを創作し、日本のカレー文化はさらに新たな豊かさを獲得した。だし汁や中国四川省の麻婆豆腐の要素も取り入れた多様なスパイスカレーも誕生している。若い世代が間借りの形ではじめた柔軟な営業形態は、インド世界の人々の「エスニックカレー」と共鳴し、交流してさらなる進化をとげていくのではないだろうか(写真2)。ただ、ナンは、現在は調理済品も販売されているが、本格的に店で作るとなると独自の窯が必要である。個別的な小資本のスパイスカレー店にはハードルが高い。あくまで、米とのセットの「日本カレー」が主流なる所以であろう。

4. おわりに

カレーライスは西洋と日本文明が一つ皿に混在するとされている。日本人は西洋文明を積極的に受け入れた。現在のスパイスカレーは、インド・中華・タイ・日本など複数の文明が一つ皿に混淆したかたちと筆者は考える。また、明治期以来、日本は文明開化のために、欧米の文化を積極的に吸収してきたのに対して、日本経済の急成長とともに、文化への“まなざし”も変わってきている。日本国内でも、東南アジア、南アジアというエスニック文化に憧れる人が増えている。また、海外旅行や移民の増加によって、日本では無国籍料理の時代に入っているのではないかと予測できる。

参考文献

- 井上岳久 2019. 『カレーの世界史』SB ビジュアル新書。
小林真樹 2019. 『日本の中のインド 亜大陸食紀行』阿佐ヶ谷書院（筆者の書評が史泉 132号, 2019, 7-12）。
小磯千尋・小磯学 2006. 『世界の食文化 インド』農山漁村文化協会。
小菅桂子 2013. 『カレーライスの誕生』講談社。
森枝卓士 2015. 『カレーライスと日本人』講談社。
三尾稔・杉本良男編 2015. 『現代インド6, 環流する文化と宗教』, 東京大学出版会
リジー・コリンガム, 東郷えりか訳 2006. 『インドカレー伝』河出書房新社。

(てい しぎょく: 本学博士課程前期課程, 2021年9月修了予定)

湯浅・有田・御坊・和歌山の自然と人文社会

嶋田 航大

2021年8月6日、「湯浅・有田・御坊・和歌山の自然と人文社会」をテーマとして日帰りのバス巡検が実施された。バス巡検といえば5月末に1泊2日で行うことが通例であるが、今年度は例の流行り病の煽りを大いに受けた形である。宿泊行事でなくなったことについては私も多少は落胆したが、中止とならなかったことは素直に喜ばしい。巡検の実施のため尽力してくださった先生方、ならびに我々を受け入れて下さった各施設の関係者の皆様には心より感謝している。

大阪難波にて集合したわれわれは、阪神高速湾岸線を經由して和歌山方面へと向かった。巡検のメインフィールドは和歌山県であるが、移動中の車窓をも見逃さず拾ってゆくのはいかにも地理学教室らしい。大阪港をはじめとした大阪湾岸の地理についての解説が終わる頃には、バスは大阪府を脱して和歌山県へと差し掛かっていた。

下津ICからは高速道路を離れ、大型の観光バスが走るには少々不釣り合いな狭さの生活道路をうねうねと走ってゆく。基本的には国道42号線に沿って湯浅まで進んでいたが、初島付近ではENEOS和歌山製油所を車窓見学すべくわざわざ幹線道路を外れた。この精油所は戦中期より存在し今もなお一日あたり12万余バレルの常圧蒸留処理能力をもつ立派なものである。また箕島から藤並にかけては有田川沿いを走行し、傾斜地上にあるみかん畑を望むこともできた。低木からなるみかん畑は上段に登ると実に見晴らしがよいため、私個人非常に好きな景観なのであるが、さすがにみかん畑の上までバスで乗り付けることはしなかった。

湯浅の老舗醤油商である角長では醤油蔵の内部を見学させていただいた。現在の生産量こそ全国シェアの1%にも満たない湯浅の醤油であるが、醤油発祥地としての風格とその品質の高さは本物である。脱脂加工大豆や醸造用アルコールを用いた安い醤油などではしっかりと鼻を近づけて嗅ぐと若干棘のある刺激を感じるものであるが、ここの醤油蔵に漂う香りは濃厚でありながらも非常にまろやかで甘く感じられた。

御坊より日ノ御碕の方向へと向かう途中に、三尾という小さな漁村がある。一見何の変哲もないただの漁村であるが、この村にはかつて貧困からの解放を夢見て遠くカナダの地へと移住した人々が存在した。集落内には日本へと帰国した一部の住民によって和洋折衷住宅が複数建造されたが、そのうちのひとつが現存しておりミュージアムとして一般開放されている。

御坊の市街地散策では突然の豪雨に見舞われた。降っては止んでを繰り返す天気にも翻弄されつつも、紀州鉄道

の廃線跡や松原通の商店街、津波タワーなどを徒歩で見て回った。本来であればこの後は和歌山市街にて宿泊し二日目の巡検に備えるところであるが、二日目が丸々カットとなったため和歌山市関連の巡検資料の発表は復路のバス車内で行われた。といっても巡検の疲れからほとんどの参加者は寝息を立てていたように思う。非常に密度の濃く充実した巡検であったと思う。

和歌山県沿海部の高速道路は少しずつ細切れに延伸を繰り返しているが、バブル経済とリゾートブームの真っ只中であった1984年からの10年間は有田が終点である状態が続いていた。豪華リゾート地として当時名を馳せていた南紀白浜や紀伊椿といったエリアへ向かうマイカー利用の観光客はみな、有田から先は曲がりくねった下道をひたすら辿りつつ、途中で点在する町や漁村に立ち寄ってお金を落としていたわけである。今回立ち寄った湯浅や広川、御坊などの町はまさにその好例である。高速道路が南紀方面まで延伸した現在では、町を通過する観光客は激減し一抹の淋しさが漂っている。沿道の大きな広告看板や昭和末期チックなりフレッシュ改装の成された町並みには、往時の賑わいが今もなおわずかに垣間見られた。

和歌山県のほとんどの地域は、本州最後の秘境のひとつにも挙げられるような深山幽谷たる内陸部と、兩岸を山地に挟まれた河口付近に中小規模の町が点在する沿海部からなる。河川流域を超えた陸上交通の整備が近畿圏の中でも最も遅れたこの地域では、外部への限られた玄関口たる河口の町や港湾を起点としてそれぞれの河川を軸として内陸部へと至るひとつのストーリーが醸成されており、そこにはひとことで「和歌山県」とまとめて体系化するには勿体ない流域独特のドラマが存在する。今回の巡検では下津から御坊にかけての沿海部をやや早足で巡った形であるが、時間が許すようであればより内陸部へと踏み込んでみても面白かったであろう。

(しまだ こうた：本学3回生)



カナダミュージアム（美浜町三尾，2021年8月6日）

今後の研究会行事

1. 秋の日帰り巡検のご案内

関西大学地理学研究会の恒例行事となっている日帰り巡検を、2回生、M1の大学院生の案内を中心にして、以下の要領で実施します。今回の巡検は、神戸市内の海岸部を東から西へ徒歩と市営地下鉄を利用してまわります。昼食は、南京町周辺で各自で本場の中華料理などをご堪能下さい。多くの卒業生、現役学生、大学院生の参加をお待ちしています。

なお、新型コロナウイルス感染拡大が1年半たっても先が見通せない状況で、場合によっては、今回のコース変更・中止もありえます。その際は専修のWebサイトで10月末までにお知らせし、参加を申し込まれた同窓会員の方にはメールで連絡させていただきますので、必ず、申込みの際には氏名、メールアドレス、携帯電話番号を野間までお知らせ下さい。通常は担当学生・大学院生のメールアドレスへの申し込みとなっていますが、今回の申込みは上のような事情に鑑みて、教員の野間の電子アドレス (noma@kansai-u.ac.jp) までお願いします。また直前のキャンセルなども野間の携帯 (090-2381-9752) までお知らせ下さい。

テーマ：神戸市臨海部の変貌と震災復興—港湾、工場、華僑、居留地、商店街

日程：2021年11月7日(日) 10:00～18:00頃 2回生、M1ら18名が案内
(新型コロナウイルス問題が収束していませんので1ヶ月延期となりました。)

集合：阪急・春日野道駅 改札口を出たガード下 10時 雨天決行 ※春日野駅は普通電車のみ停車

コース：阪急春日野道駅(10:00)～春日野道商店街・大安亭市場～賀川豊彦記念館(見学)～三宮駅周辺の変貌～フラワーロード～旧居留地～南京町(昼食)～ポートタワー～神戸海洋博物館・カワサキワールド(見学)～みなと元町駅—(神戸市営地下鉄海岸線)—中央市場前駅～大和田泊～兵庫運河～清盛塚～和田岬駅～三菱重工業～和田岬駅—(神戸市営地下鉄海岸線)—駒ヶ林駅～JR新長田の震災復興とケミカルシューズ集中地区～JR新長田駅(解散)

費用：城内電車運賃420円+入場料(820円)で1240円、それにプラスして昼食代(南京町周辺での食事代)+自宅からの春日野道、新長田駅までの運賃

教員責任者：野間晴雄 土屋 純

2. 第3回千里地理学会

日時：2021年12月11日(土) 14時30分～17時00分

場所：関西大学千里キャンパス 第1学舎1号館(A棟) A601

千里地理学会 14:30～17:00

- 1) 大学院生：仙台実習調査中間報告
- 2) 田中優生(公益財団法人 大阪国際平和センター・専門職員)「戦争記憶の語り継ぎと地域の関係性—片町線沿線を中心に—」
- 3) 野間晴雄(関西大学教授)「鉄道と人生—海外編—」
- 4) 松村嘉久(阪南大学教授、本学非常勤講師)「現場共育と社会的実践で地域を変える—大阪・新今宮から—」

懇親会 今年も新型コロナウイルスの感染拡大の状況が見通せないため中止します。

——地理学同窓会総会のお知らせ——

12月11日(土)に地理学同窓会総会を開催いたします。17:00～

会場：関西大学千里山キャンパス第1学舎(A棟)6階A601教室

* 14時30分から同じ会議室で千里地理学会を開催します。(来聴歓迎)

〔報告および審議事項〕

- ・地理学研究会と同窓会の統合について
- ・地理学研究会の名称変更について
- ・地理学研究会の新会長選出について
- ・本年度の中間会計報告および今後の会計見直しについて
- ・今後の教室開催行事予定について

新専修生からのひと言

上野楓夏

こんにちは。新潟県上越市出身です。暇な時に地図や統計データを見たり、旅行をしたりするくらい地理好きです。これから宜しくお願い致します。

神谷風奈

初めまして、2回生の神谷です。私は様々な街を歴史や地形、観光など様々な観点から見て歩くのが好きなので、この専修を選択しました。これからよろしくお祈りします！

北村達也

兵庫県神戸市に住んでいます。高校では防災を専門に学んでおり、地域環境についてかねてより興味があったので、地域環境学コースを選択しました。特に野球、サッカーが好きです。

久野拓馬

はじめまして！名古屋出身で趣味は音楽と旅行です。小さい頃からアトラスなど道路地図を見るのが好きで、もっと自分の好きを深めたくこの専修に入りました。これからよろしくお祈りします！

塩谷 唯

こんにちは。私は京都に住んでいるので歴史を感じるところを散策するのが好きです。より、探究したいと思い地理学専修を選択しました。よろしくお祈りします！

隅田尚亮

はじめまして、隅田です。幼いころから地図には慣れ親しんでいたものの、高校ではあまり地理を学ぶことができなかったのがこれから学びを深めていきたいです。よろしくお祈りします。

西 温紀

初めまして。京都府京都市在住です。旅行や観光、歴史が好きなので、この地理学専修を選ばせて頂きました。また、写真撮影や鉄道といった交通機関などの趣味も嗜んでいます。これからよろしくお祈りします。

野垣光希

初めまして、兵庫県宝塚市出身の野垣です。地図や旅行が好きなので地理に興味を持ち、地理学専修を希望しました。観光や交通などにも興味があります。これからよろしくお祈りします。

藤浪可奈恵

初めまして。旅行をして、地域の文化に触れることが好きです。観光について学びたいと思いこの専修を選びました。よろしくお願ひします。

松田治樹

僕は地図や測量に興味があり、地域学専修を希望しました。小さい頃から運動が得意で体を動かすことが好きなのでフィールドワークが楽しみです。よろしくお願ひします。

森川弘世

旅行したり写真撮影が趣味で地理学専修を希望しました。フィールドワークも楽しみたいと思います。よろしくお願ひします！

森本桜子

はじめまして。私は観光学に興味があり、地理学専修を選びました。特に地域活性化に興味があります。よろしくお願ひします。

吉岡加帆

はじめまして。観光に興味があることと、中学・高校の時に行ったフィールドワークが面白かったため、この専修を選択しました。よろしくお願ひします。

朴 智娜

初めまして、韓国から来ました。私は、日本の地域文化・観光・経済、そして大阪に興味深いです。これからよろしくお願ひします！

〈大学院生〉

関 伊夢

(院博士前期課程)
初めまして、中国北京市出身です。大学では日本語を専攻しました。観光と在日外国人に興味があり、人文地理学ゼミを選びました。最近、英語の重要性を知り、工夫して勉強しています。どうぞよろしくお願ひします。

高田協平

(院博士前期課程)
初めまして。大阪府出身で、学部生の4年間は沖縄で過ごしました。地形と自然災害の関係に興味があります。趣味は野球観戦や、様々な場所へ鉄道で旅行し、その土地の文化に触れることです。よろしくお願ひします。

卒業論文及び修士論文一覧 (2021年3月・9月, 卒業・修了)

【卒業論文 2021年3月卒業】

赤阪 怜美	熊野地域における着地型観光の展開 — 田辺市熊野ツーリズムビューローを事例に—
赤澤 祐介	西宮市の神社立地に関する分析
秋田 航志	大正筋商店街の変容と課題
天野 奏	観光列車を基軸とした交通インフラと地域おこしの結合 — JR 飯山線を中心に—
荒川 望	二上山の植生と鳥類の生態に関するフィールド調査 — 鳥害対策と生物多様性の保全策の提案を念頭に置いて—
板垣 早紀	韓流ブームが生野コリアタウンに与える影響
川中 悠生	宇治市におけるコンテンツツーリズムの現状と今後の展開
兼子 真直	飲料自動販売機のジオマーケティング研究 — 阪急千里線沿いを事例に—
河内 真矢	北大阪急行延伸に伴う勢力圏の変化と街の変容
小西 志門	尼崎市の特徴と地域間の違い
猿渡凜太郎	大阪のゴミ処理の課題と可能性
瀬口 知樹	ヴァーチャルコミュニティと地理的分布の関連性について
辻 美里	昔話にみられる地理的要因とメッセージ性の関係
西浦 慧	京都府阿蘇海における環境と牡蠣礁の関係
西口 輝一	通勤・購買行動からみた京阪神大都市圏の都市間結合
林 万葉	大学航空部の実態と滑空機飛行に最適な空間 — 大野滑空場, 八尾空港を事例に—
廣田 真子	オーストラリアにおける多文化社会への変容と教育的対応
深谷 早紀	大阪市東部の神社の祭神と立地特性に関する研究 — 淀川の氾濫水害に着目して—
藤井 美来	福山等の産地形成と技術伝承
藤丸 絃生	キャベツの「生食」習慣の定着 — 近代日本における食生活の変容の一例として—
富士元莉乃	箕面市の交通が抱える課題と北大阪急行延伸事業がもたらす効果 — 鉄道不便地域の解消に向けた延伸事業と路線バスの再編—
松本恵利奈	西国三十三所巡礼道の現状と保全
水野 真心	ワーケーションは地方創世のかぎとなるか
安平 彩乃	SNSの誕生と京都観光 — 新たな観光のかたち—
李 嘉敏	琵琶湖水運の要衝, 堅田 — まちの変遷を中心に—
井野 厚	兵庫県西播磨地域における歴史文化・地場産業とその保全活用 — たつの市を中心に—

【修士論文 2021年3月修了】

趙 欣鑫	ユネスコ世界ジオパークにおける地域資源の活用 — 室戸ユネスコジオパークと北京延慶ユネスコジオパークを事例に—
李 嘉文	中国における紹興酒造業の成立とその地域展開
海 思琪	日本の企業城下町の形成と展開 — 石油化学コンビナートを中心に—

【修士論文 2021年9月修了】

鄭 梓鈺	日本におけるカレーの受容と多様化・新規参入の諸相 — その文化地理学的考察—
------	--

教室だより

■令和3(2021)年度の地理学・地域環境学専修に所属された2回生は14名でした。大学院博士課程前期課程には3名が入学し、1名(大阪府出身・琉球大学卒業, 受入 黒木貴一)と、留学生の1名(中国・遼寧省出身, 受入 黒木貴一), もう1名は(中国・北京出身, 受入 土屋純)です。2回生は14名, 3回生は26名, 4回生は18名, 博士課程前期課程12名の計70名となります。

■2021年度に新たに非常勤講師としてご出講いただいているのは、池口明子先生(横浜国立大学), 岡森啓先生(清風南海高校), 田中和子先生(京都大学), 楠和樹先生(京都大学), 額田雅裕先生(和歌山市立博物館)です。

■恒例の5月の「地理学・地域環境学実習」のバスによる1泊巡検は、新型コロナウイルスの問題により延期となり、8月6日に日帰りで実施しました。和歌山県湯浅町・広川町・御坊市方面にバス1台で出かけました。

■大学院合同演習は、昨年と同様に関西大学梅田キャンパスで7月18日(日)に実施しました。閻伊夢, 高田恭平, 潘多, 張銘珊, 何雪瑩, 李蕊君, 蔡伊寧, ガルサンドルジ・ブルドルジ, 朱子同, 劉天星, 徐雨辰, 鄭梓鈺の12名の発表がありました。中国に帰国中の院生はZoomで参加しました。その後の懇親会で

すが新型コロナウイルスの問題により中止となりました。

■2021年3月～9月までの教員の海外出張はありません。

地理学研究会および同窓会 令和2年度会計報告

(収入)	(円)
一般会費(4名)	16,000
新入生会費(23名)	23,000
卒業生会費(14名)	28,000
寄付金	10,000
計	77,000
(支出)	(円)
千里地理第82号印刷代	85,800
千里地理第83号印刷代	33,000
千里地理第83号郵便送代	10,002
千里地理第84号印刷代	60,500
切手, はがきなど郵便代	5,250
雑費	10,984
計	205,536
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	422,422
収入-支出	-128,536
計	293,886

潘多

(院博士前期課程)

こんにちは。今年4月から関大に勉強をはじめました。出身は中国の遼寧省です。自然地理学に関する研究を進めたいと思い、黒木ゼミで学びます。大学生の時から、水に関するものに興味を持つようになりました。これからも水に関する研究を進めたいと思います。どうぞ、よろしくお願いします。

張銘珊

(大学院研究生)

初めまして、中国黒龍江省出身です。私は歴史と旅行が大好きです。大学時代に「文化産業管理」という学科で、文化資源の利用について学びました。「文化+観光」の研究に興味があります。これからよろしくお願ひします。

〈同窓会事務局ニュース〉

- ・12月11日(土)に地理学同窓会総会を開催いたします。詳細は別途記事をご参照ください。
- ・2012年の卒業生に対して、事務局から郵送による消息調査をおこなっています。該当する卒業生の方には往復はがきを送付しておりますので、ご協力よろしくお願ひ申し上げます。
- ・同窓会通信の執筆者を募集しております。1ページ1600～1800字程度、半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また、会費の納入状況などのお問い合わせも上記メールアドレスにお願ひいたします。

卒業生の近況

「国際通訳株式会社」経営で27年になります。取引先は主に官公庁やテレビ局, 弁護士会, 企業などで、英語や西欧の言語を中心に世界190カ国語を扱っています。地理と大いに関係あり楽しみながら仕事をしています。
(松村 弘, 2009年博士課程前期修了)

私が関西大学に入学するきっかけは、中学校・高等学校を通して、なぜか「地理」の成績だけが良くほんやりと大学に進学できれば地理を学びたいというものでした。ただ入学時には単純に青森県のりんご栽培に興味があり、その生産や流通などについて調べてみたいなどと考えていました。ところが当時ゼミが始まる学年（3回生）になった時、農業生産は当然のごとく気象条件に左右されることも多いことを再認識しました。そして卒業論文では、「香川県の干ばつについて」というテーマで、香川県内の水稻栽培と農業用水、そして災害史としての干害を関連づけてまとめようとしていました。しかしまったくの不勉強だったために、地理学演習Ⅱ（卒業論文担当）の指導教員であった河野通博先生には厳しい言葉をいただきましたが、かろうじて卒業させていただくことができました。

その後大学院（当時は修士課程）に進学して、自然地理学を専攻することになりました。気候全般に関する興味は持ち続けていましたが、さて修士論文に向けて新たにテーマを設定する必要に迫られました。卒業論文の「干ばつ」などの災害を歴史的にまとめていくことも頭をよぎりましたが、傲慢にも歴史を辿るなどつまらないことだ、と考えておりました（若かりし頃の戯言ですので、あくまでも誤解のないようお願いいたします）。

では何をテーマにということになりますが、ふと図書館で手にしたのが1972年に出版された『都市気候学』という本でした。著者の一人である大後美保先生は農業気象学がご専門で、実は卒業論文作成時に農業気象学関連の書物でお名前は存じ上げていたのですが、都市についても書かれているのかと思ったものでした。その中で特に目を引き、これなら挑戦できるかなと感じたのが、都市に出現するヒートアイランドでした。これだ、ということで修士論文のテーマは、都市のヒートアイランドで行こうと決めました。当時気象庁のアメダスのデータ以外に、自治体等が独自に気温観測を行ってはいましたが、ヒートアイランドを検出するには観測密度が粗く、地理学の分野では移動観測という方法が行われていました。

そこで大阪市内全域で、無謀にも自転車やバイクを使用した気温の夜間移動観測を行うことにしました。とはいうものの、何しろ多くの手が必要でした。そこで無理を承知でお願いして、先輩方や多くの後輩の方々の助けを借りて、何とか観測を行うことはできました。今

になって思えば、すでにヒートアイランドが広域化しており、典型的なものは現れませんでした。局所的にはヒートアイランド、クールアイランドを観測することができ、その背景を考察することができました。さらに、他大学の大学院生や後輩の移動観測に参加させていただいたこともありました。そしてこれ以降、局地的な気候が興味の対象になりました。その後は末尾至行先生をはじめとする地理学教室の先生方のご配慮で、高等学校や大学で非常勤講師としていくつかの科目を担当させていただきました。

関西大学では、木庭元晴先生からお声がけいただき、共通教養科目として、気象や気候に関わる科目ということで、「気象と気候を学ぶ」を担当させていただいております。この科目は教養科目ということで、高等学校で地理や地学を履修したことがない学生さんも多く履修されております。そのため、失礼ながら気象学・気候学の基本的な内容を紹介するものとさせていただいております。具体的には、地球大気の成り立ちから始まり、太陽放射と地球放射、雲の発達から降水のしくみ、温帯低気圧と移動性高気圧、そして最後に気象災害につながる降水システムや熱帯低気圧といった流れです。その他にも話題に上ることが多い気候変化、気候変動、異常気象をテーマに紹介しています。そして何がそれらの原因になっているのか、上記の3つの用語がきちんと使い分けられているかなどについても触れています。

現在スマートフォンひとつあれば、さまざまな気象情報にもアクセスが可能です。またいろいろと便利なアプリが気象会社等から入手できます。そんなご時世でも気象学や気候学は、その知識・情報を社会に還元する役割をもっていると考えておりますので、授業では日常生活に生かせるような気象のしくみなどを積極的に紹介しています。最近では、少数ながら気象予報士受験を考えている、という学生さんがいらっしゃいます。微力ではありますが、そんな方への手助けができれば大変うれしいことだと思っております。

（とおかわ あきひこ：本学非常勤講師）

千里地理通信 第85号

2021年9月15日 発行 (350部)

関西大学地理学・地域環境学教室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内

編集担当：土屋 純

TEL：06-6368-1121（内線4890：大学院生室）

e-mail：kandaichiri@gmail.com

http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪 00970-4-81149